

第38期 (2018年6月期)

# 第2四半期連結業績説明資料

2018年 2月

ドン.キホーテ HLDGS

専務取締役 兼 CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki-hd.co.jp/>

e-mail : [ir@donki.co.jp](mailto:ir@donki.co.jp)





## 2018年6月期2Q 決算概況

- ✓ 決算業績概況
- ✓ 事業別業績概況
- ✓ 主な資産、負債、純資産の状況
- ✓ セグメント情報
- ✓ キャッシュフロー、設備投資の状況
- ✓ 株式の状況

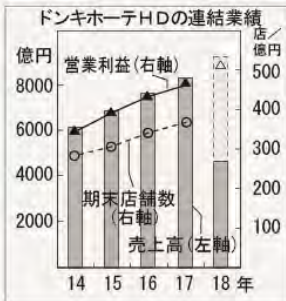
## ドン・キホーテグループトピックス

- ✓ 出店状況&ハイライト情報
- ✓ 決算レビュー
- ✓ 販売動向分析
- ✓ ポストGMS始動
- ✓ インバウンドの状況
- ✓ 月次販売の状況

## 2018年6月期 業績予想

- 本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。
- 本資料中、ドンキホーテHD(7532)は「ドンキホーテHD」または「DQHD」、ドン・キホーテ、または同店舗は「DQ」、日本アセットマーケティング(8922)は「JAM」及び持分法適用会社のユニーは「ユニー」または「UNY」、アクリーティブ(8423)は「ACR」並びにユニー・ファミリーマートHD(8028)は「UFHD」と表示している箇所があります。
- 前期より「企業結合に関する会計基準」を適用しておりますが、本資料に記載している勘定科目等は、意を損ねることがない程度に簡略した表記をしている箇所があります。

## ドンキホーテHD、勝負に徹して増収増益



顧客最優先主義は無敗続き、7/12月期  
ドンキホーテホールディングスは2017年7月~12月期連結決算を6日に発表した。売上高は前期比10%増の4628億円、営業利益は11%増の292億円、経常利益は15%増の311億円及び純利益は13%増の187億円と、いずれも同期間として過去最高実績を更新した。景況感は緩やかな改善トレンドを見せ始めてきたが、家計消費支出は前年比マイナスが続くなど、消費活動の実態は相変わらず節約志向が主流だ。顧客最優先主義を企業原理としてビジネス活動を展開している同社の個店営業力は強く、まさに無敗続きで疾走している。

### 経営はバランス

生活必需品に係る価格競争は、企業間競争だけでなく、業態の垣根を超えますます激化してきた。相次ぐ天候不順は、季節感を取り戻すまでの時間を要するなど、実に厄介だった。出店地域ごとに異なる商圈特性や店舗間競争の状態を踏まえながら、他店を圧倒する品揃えと価格設定の合わせ技

を駆使するなど、政策的な仕掛けを練り出したことにより、各地域におけるシェア拡大は続いた。

一方で、二年前から取り組んできた「組織改編」と「ドンキ流動き方改革」の進捗は、現場のモチベーション向上に直結し、人時生産性や賃金生産性は着実に上昇し、経営効率は改善した。厳しい外部環境のもとでも、バランス良く「稼ぐ力」が当期も実証された。

### 免税販売も好調

主力のドン・キホーテ既存店は、個店主義の徹底により4・8%成長した。

# A○B新聞号外

目黒区青葉台2\*19+10

1Q89 established

ファミリー層が多いMEGA主体の長崎屋既存店は3・1%成長した。セグメント別では、リテール事業の売上高は、4488億円、セグメント利益は175億円だった。

生活必需品や消耗品需要が全体を牽引する状況は、国内消費、インバウンド消費とも変わらない動きだ。特にインバウンド消費は、消耗品需要に大きくシフトした前年からのすう勢に加え、お買上げ客数は220万人を数え、前期比50%増に達し、免税販売における同社の人気上昇は際立っている。

一方で、テナント賃貸事業の売上高は107億円、セグメント利益は88億円と収益貢献は高い。グループ全体の店舗数は、巡航速度を保つ新規出店に加えて、ハワイ州のスーパーマーケットQSIをグループ化するなど前期末比35店舗増の403店舗となった。

### 通期業績を修正

第2四半期累計期間までの進捗状況を踏まえて、通期業績予想を上方修正した。

売上高は9200億円(前期比11%増)、営業利益は510億円(同10%増)、経常利益は538億円(同18%増)といずれも過去最高実績を目指す。純利益は322億円と2%減を見込むが、前期における特別損益戻98億円の反動を考慮すれば、当期も実質増益に変わらない。

下半期は、ハワイのスーパーマーケットQSIの損益実績が連結され、ユニーの持分適用開始による収益も期待できる。

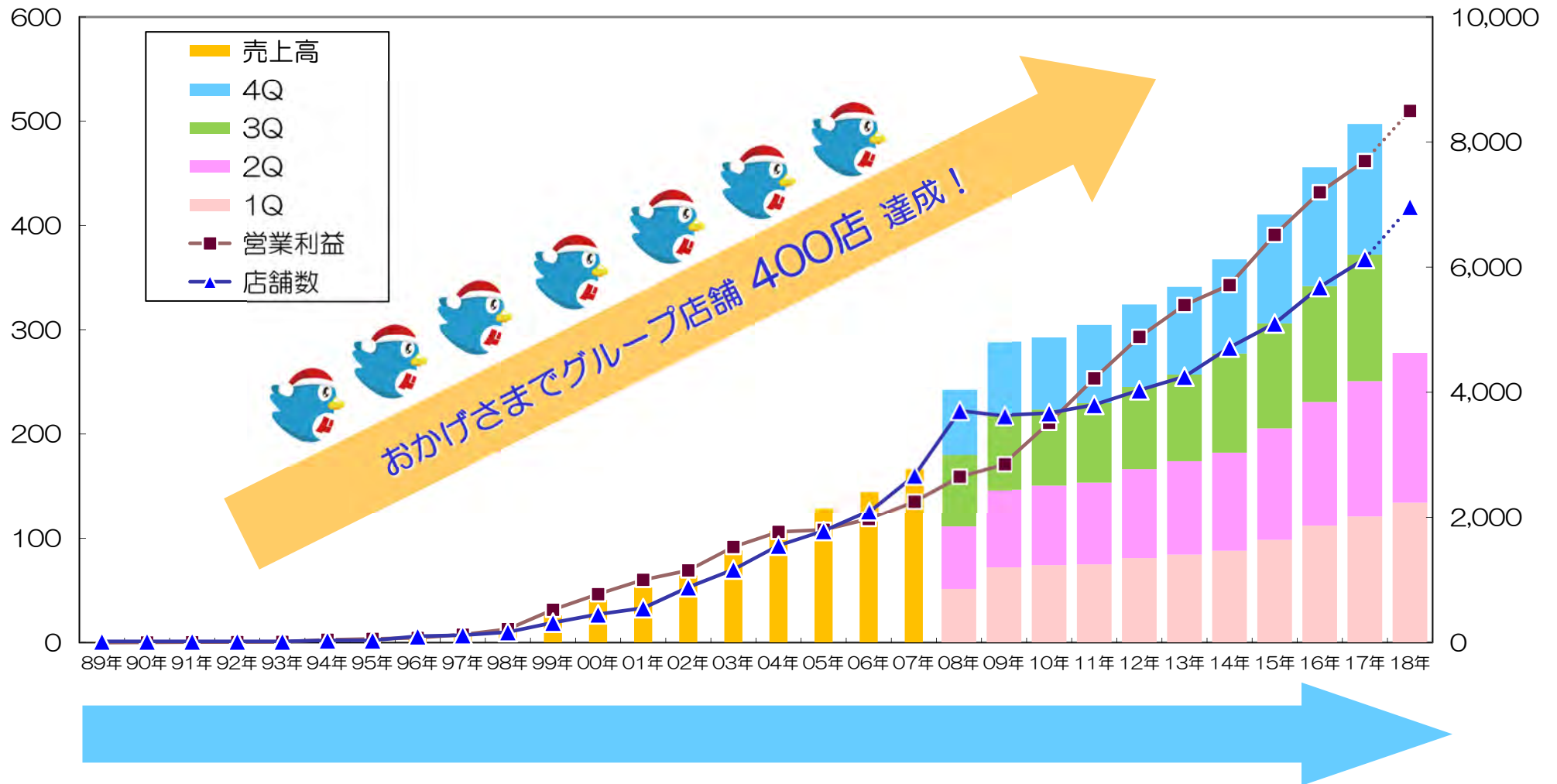
【MT記】

# 年間業績推移

ドンキホーテ HLDGS

店舗数 (店)  
営業利益

(金額単位：億円)  
売上高



(注) 当社グループは、DQ 1号店を創業開店（1989年3月）して迎えた最初の決算期（1989年6月期）から、直近期（2017年6月期）まで、28期連続増収営業増益を継続しております。なお、連結決算は96年6月期から開始しているため、連結ベースは21期連続となります。

## 1. 2Q累計連結業績概況

引き続き「攻めの経営」を推進し、「個店主義」の徹底強化で、商圈内顧客支持率を高める！  
「組織改編」と「ドンキ流働き方改革」で、「人時生産性が改善」する効率的な経営活動が展開されて、  
当2Qも過去最高実績を更新する増収増益決算で着地！！

- ▶ 将来の残存者利益獲得のため、個店ごとの必勝パターンを確立して、局地戦を確実に勝ち上がる。  
「EDLP+地域最安値」で、必需品消費に係る主導権を持ちながら、顧客への利益還元を促進。  
ニーズを逃さない変化対応力を駆使して、ヒット商品の提案も心地よく既存店売上高は16ヵ月連続して前年を上回る。
- ▶ 景気回復の実感が乏しく、日々の消費行動に遠慮が伴う現状は、政策的に「率」をトレードオフして  
「客数増」と「購入点数増」を徹底する。  
付加価値が高いディスカウント体制の底力で、ライバルから奪取したシェアを着実に積み上げて、店舗間格差の拡大を進める。
- ▶ インバウンド消費の勢いはますます加速し、当2Q売上高構成比は7.6%（※DQ）に伸長。  
買い物ディステーションとしての「リアル ドン・キホーテ」が映し出す非日常的な空間は、訪日旅行客の関心が高く、  
口コミ人気と相まって個人客・リピート客がますます増加。
- ▶ 販管費については、新規出店に係る諸費用（人件費・地代家賃など）は増加するが、2015年から取り組んできた「組織改編」と  
「ドンキ流働き方改革」の成果が出現。トップラインの伸長も後押しして、バランス良く「稼ぐ力」が発揮された。
- ▶ これらのことから、2Q連結累計業績は、売上高4,628億円（前期比10.8%増）、営業利益292億円（同11.0%増）、  
経常利益311億円（同15.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益187億円（同13.5%増）と  
いずれも会社予想を上回る増収増益を達成し、2Q累計期間最高実績を更新。

## 2. 業績見通し

### 通期業績予想を上方修正！

- ▶ 2Q累計連結業績の進捗状況、新規店舗開発状況及び子会社の異動などを踏まえて、売上高9,200億円（前期比11.0%増、  
従来予想8,900億円）、営業利益510億円（同10.4%増、同498億円）、経常利益538億円（同18.2%増、同498億円）、  
親会社株主に帰属する当期純利益322億円（同2.7%減、同295億円）にいずれも上方修正し、29期連続増収増益を見込む。
- ▶ お客さま心理に沿った販売施策を柔軟かつ迅速に行い、顧客満足度の最大化に努めると同時に、  
①攻めた結果の在庫増については、適切に見極めていく。②PB商品を始めたドンキらしい商品を充実させた拡販体制を  
再構築する。③ユニーとのダブルネーム転換店の業績伸長に注力する。

# 2Q累計業績サマリー

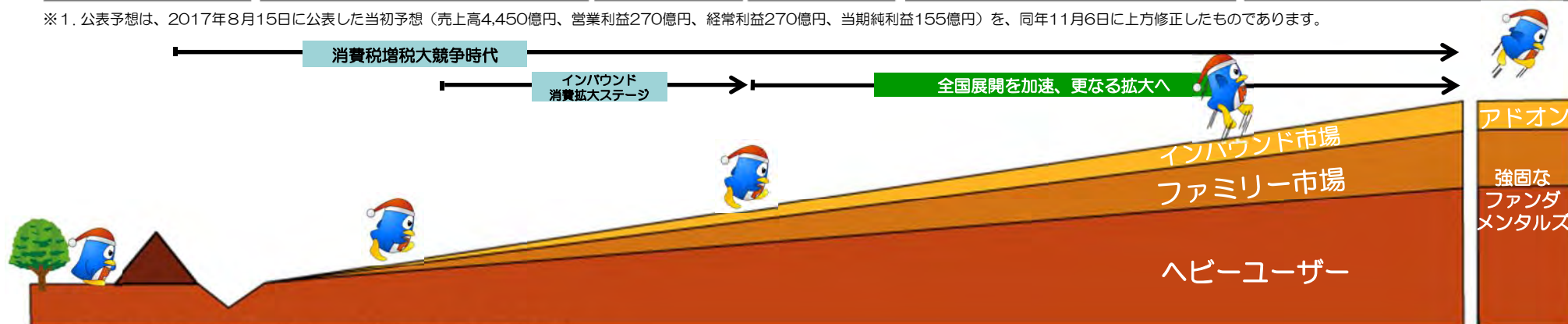
ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2017年7月1日～2017年12月31日】

(単位：百万円)

連結実績	当2Q累計実績				前2Q実績		公表予想 <sup>※1</sup>	
	金額	百分比	前期比	予想比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	462,830	100.0%	110.8%	101.7%	417,694	100.0%	455,000	100.0%
売上総利益	120,176	26.0%	108.6%	100.8%	110,640	26.5%	119,200	26.2%
販管費	90,929	19.6%	107.9%	100.6%	84,297	20.2%	90,400	19.9%
営業利益	29,247	6.3%	111.0%	101.6%	26,343	6.3%	28,800	6.3%
経常利益	31,058	6.7%	115.3%	108.2%	26,928	6.4%	28,700	6.3%
当期純利益	18,678	4.0%	113.5%	110.5%	16,459	3.9%	16,900	3.7%
1株利益		118.08円	113.4%	110.5%		104.09円		106.83円

※1. 公表予想は、2017年8月15日に公表した当初予想（売上高4,450億円、営業利益270億円、経常利益270億円、当期純利益155億円）を、同年11月6日に上方修正したものであります。





# 2Q累計連結業績概況コメント

ドンキホーテ HLDGS

## ▶ 連結売上高：4,628億円（前期比10.8%増）

消費の中心は節約志向。生活必需品を中心に地域最安値作戦を徹底訴求し、商圈内ポジションを高める。移ろいやすい顧客ニーズを素早い適応力で応えたDQ既存店は4.8%増（真水2.8pt増、免税2.0pt増）。MEGA運営の長崎屋既存店は3.1%増と絶好調！インバウンド消費に係るDQ既存店は41.5%増（全店54.8%増）と新免税制度開始以来39ヵ月連続前年クリア中で、220万人にお買い上げ頂く。

## ▶ 当2Q末店舗数：403店（前2Q末354店、前期末368店）

新規出店国内14店（DQ8、MEGA1、New MEGA5）、同海外1店（シンガポール1店）、M&A（ハワイ：QSI24店）、閉店4店。

## ▶ 連結売上総利益：1,202億円、同総利益率：26.0%（前期比8.6%増、同0.5pt低下）

消費マインドのリアルな現実にお応えして、食品や日用消耗品などの販売を強化。EDLPを徹底した上で、お客さま満足度を高める地域最安値作戦で挑み、主導権をにぎる。天候不順の影響は季節商品を振り回し、嗜好の変化はバラエティ商品を困惑させたが、「率」でなく「額」を重視する営業施策は、シェア拡大に大きく寄与。

## ▶ 連結販管費：909億円、同販管费率：19.6%（同7.9%増、同0.6pt低下）

積極的な新規出店に係る初期費用、人件費及び地代家賃などは増加するが、既存店人件費については、二年越しの組織改編とドンキ流動き方改革の推進に伴って、人時生産性や賃金生産性が着実に改善。バランス良く「稼ぐ力」を実現。

## ▶ 営業外収支尻：18億円のプラス

受取利息・配当金6億円、持分法投資収益17億円/支払利息14億円、債権流動化費用2億円など。

## ▶ 特別損益収支尻：1億円のマイナス

固定資産売却益0.9億円/固定資産除却損0.9億円、店舗撤退損失1.2億円など。

## ▶ これらの結果、営業利益292億円（同11.0%増）、経常利益311億円（同15.3%増）、当期純利益187億円（同13.5%増）といずれも増益を達成し、2Q累計期間最高益を更新！

# 2Q累計連結業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2017年7月1日～2017年12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q (累計)		前2Q (累計)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	462,830	100.0%	417,694	100.0%	110.8%
売上総利益	120,176	26.0%	110,640	26.5%	108.6%
販管費	90,929	19.6%	84,297	20.2%	107.9%
給与手当	34,031	7.4%	32,124	7.7%	105.9%
地代家賃	13,402	2.9%	11,387	2.7%	117.7%
支払手数料	11,166	2.4%	9,424	2.3%	118.5%
減価償却費	6,841	1.5%	6,793	1.6%	100.7%
その他	25,489	5.5%	24,569	5.9%	103.7%
営業利益	29,247	6.3%	26,343	6.3%	111.0%
経常利益	31,058	6.7%	26,928	6.4%	115.3%
当期純利益	18,678	4.0%	16,459	3.9%	113.5%
1株当たり純利益	118.08円		104.09円		113.4%

# 2Q累計事業別業績概況コメント

ドン・キホーテ HLDGS

## ▶リテール事業4,488億円（前期比11.2%増）

景況感は徐々に改善の兆しが見えるが、生活必需品に係る節約志向は根強く、消費環境の厳しさは継続！  
競争力を発揮した価格設定によりライバルを着実に追い込み、客数増及び販売高増を実現した支持基盤はますます強固に！！  
インバウンド消費は客数の大幅増を背景として、消耗品ニーズを中心に勢いが加速！！

### \*「家電製品」400億円（同12.7%増）

気温の変化に伴って、季節家電が好調に推移。話題の新機種発売やゲームアプリの配信開始がスマートフォンアクセサリーの需要を喚起したほか、4KテレビやフルHDカメラ及びノートPCなど、プライベートブランドのヒット商品が貢献。

### \*「日用雑貨品」1,084億円（同23.5%増）

洗剤やラップなどの日用消耗品が底堅く推移。化粧品や医薬品はインバウンド消費の活況に伴って、勢いが加速。  
日焼け止めや保湿クリームなどが押上げ効果を発揮。

### \*「食品」1,536億円（同14.6%増）

チョコレート人気が高い菓子類及びチーズや豆腐などの日配品が稼ぎ頭となる。  
MEGA店は、天候不順により青果や鮮魚などの市場流通量が減少して相場高となるが、精肉やアウトパック惣菜が寄与。

### \*「時計・ファッション用品」838億円（同2.3%減）

加熱式タバコやパーツなどの嗜好品雑貨が急伸。スポーツ衣料や雨具が高い伸び率を記録。  
気温低下が実用下着や手袋などの防寒用品の需要を喚起。

### \*「スポーツ・レジャー用品」311億円（同2.1%増）

天候不順や曜日配置により、レジャー用品やハロウィン及びクリスマスなどの季節イベント用品は苦戦したが、  
加圧シャツやプロテインなどのスポーツ用品がカバー。

### \*「DIY用品」82億円（同4.8%増）

台風などの天候不順がエクステリア用品にマイナス影響を及ぼしたが、防寒用ワークウェアや暖房器具などが伸長。  
門松などの縁起物ニーズが貢献して、年末商戦が活況を呈す。

### \*「海外」179億円（同6.9%増）

精肉などの生鮮食品はリピーターが増加。寿司や弁当類は、バランスの取れた品質と価格で人気が高まり、  
パン類や和菓子などの日配品は順調。（ご参考：当2Q 1USD=111.3円、前2Q 1USD=105.7円）

## ▶テナント賃貸事業107億円（同3.3%増）

居抜きを中心とした積極的な新規出店が、商業施設事業及びJAM事業の収益拡大に寄与。

# 2Q累計事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2017年7月1日～2017年12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q (累計)		前2Q (累計)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業 <sup>※1</sup>	448,791	97.0%	403,716	96.7%	111.2%
家電製品	40,010	8.6%	35,490	8.5%	112.7%
日用雑貨品	108,408	23.4%	87,782	21.0%	123.5%
食品	153,557	33.2%	133,985	32.1%	114.6%
時計・ファッション用品	83,838	18.1%	85,796	20.5%	97.7%
スポーツ・レジャー用品	31,079	6.7%	30,444	7.3%	102.1%
D I Y 用品	8,166	1.8%	7,790	1.9%	104.8%
海外 <sup>※2</sup>	17,927	3.9%	16,772	4.0%	106.9%
その他商品	5,806	1.3%	5,656	1.4%	102.7%
テナント賃貸事業 <sup>※1</sup>	10,686	2.3%	10,349	2.5%	103.3%
その他事業	3,353	0.7%	3,629	0.8%	92.4%
合計	462,830	100.0%	417,694	100.0%	110.8%

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. 当2Q 1USD=111.3円、前2Q 1USD=105.7円

# 主な資産の状況

(単位：百万円)

	17年12月	17年6月	増減額
流動資産	240,563	227,585	12,978
現預金	51,677	76,340	▲24,663
商品	145,140	123,969	21,171
固定資産	541,574	415,283	126,291
建物等	125,130	118,623	6,507
土地	174,090	171,018	3,072
長期貸付金	100,938	23,171	77,767
敷金保証金	45,022	40,474	4,548
資産合計	782,137	642,868	139,269

## 主な資産の状況

12月末は小売業界の繁忙期のため、6月末に比して資産のうち、商品などは増加する傾向があります。

- ▶ **総資産：7,821億円**（前期末比1,393億円増）  
主な増減要因は、受取手形及び売掛金43億円増、商品212億円増並びに固定資産1,263億円増などの一方で、現預金247億円減。
- ▶ **現預金：517億円**（同247億円減）  
当期以降の事業領域拡大に係る資金を調達し、QSIのグループ化及びUFHDとの提携を進める。
- ▶ **商品：1,451億円**  
（同212億円増、前2Q末比225億円増、18.3%増）  
新規出店数15店に加えて、積極的な販売攻勢を取りながら販売機会ロスを抑制するために商品在庫を積み増し。
- ▶ **固定資産：5,416億円**（同1,263億円増）  
当期中の新規出店15店に加えて、QSI子会社化及びユニーへ出資したことなどにより、有形固定資産123億円増、のれん136億円増、投資有価証券216億円増及び長期貸付金778億円増など。

# 主な負債&純資産の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	17年12月	17年6月	増減額
流動負債	189,532	164,825	24,707
買掛金	116,783	85,661	31,122
短期負債 <sup>※1</sup>	17,122	25,022	▲7,900
固定負債	295,708	198,113	97,595
社債	72,982	74,890	▲1,908
長期借入金	187,069	84,638	102,431
債権流動化に伴う 長期支払債務	15,749	19,366	▲3,617
負債合計	485,240	362,938	122,302
純資産合計	296,897	279,930	16,967
負債・純資産合計	782,137	642,868	139,269

## 主な負債・純資産の状況

12月末は小売業界の繁忙期のため、6月末に比して負債のうち、買掛金などは増加する傾向があります。

- ▶ 負債合計：4,852億円（同1,223億円増）  
主な増減要因は、買掛金311億円増及び有利子負債926億円増（短期性負債79億円減、長期性負債1,005億円増）の一方で、債権流動化に伴う支払債務36億円減など。
- ▶ 有利子負債：2,772億円  
（同926億円増、依存率35.4%）
- ▶ 純負債：2,255億円（同1,173億円増）
- ▶ 債権流動化に伴う支払債務：230億円  
（同36億円減）  
ABL（Asset backed loan）による調達残高
- ▶ ネットD/Eレシオ：0.76倍
- ▶ インタレスト・カバレッジ・レシオ：21.1倍
- ▶ 純資産：2,969億円  
（同170億円増、自己資本比率35.3%）

※1. 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債

# 2Q累計セグメント情報 (事業別)

ドン・キホーテ HLDGS

「リテール事業」のセグメント利益は175億円、  
「テナント賃貸事業」は88億円、「その他の事業」は29億円！

## 当2Qセグメント概要 <sup>※1</sup>

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業 <sup>※2</sup>	計	調整	連結
外部売上高	448,791	10,686	3,353	462,830	—	462,830
内部取引等	427	10,637	4,522	15,586	▲15,586	—
計	449,218	21,323	7,875	478,416	▲15,586	462,830
セグメント利益	17,495	8,834	2,858	29,187	60	29,247

## 前2Qセグメント概要 <sup>※1</sup>

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業 <sup>※2</sup>	計	調整	連結
外部売上高	403,716	10,349	3,629	417,694	—	417,694
内部取引等	271	9,780	4,951	15,002	▲15,002	—
計	403,987	20,129	8,580	432,696	▲15,002	417,694
セグメント利益	14,321	8,442	3,485	26,248	95	26,343

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. 「その他事業」は「不動産事業」「マーケティング事業」及び「金融サービス事業（当期は対象外）」などであります。

# 2Q累計セグメント情報 (法人別)

ドン・キホーテ HLDGS

競争が激化する消費環境を戦い抜き、グループ総合力を発揮して増収増益達成！

## 当2Q主要法人別セグメント概要

(単位：百万円)

	ドン・キホーテ	ドイツ	長崎屋 <sup>※1</sup>	海外 <sup>※2</sup>	JAM <sup>※3</sup>	連結
売上高	339,466	8,524	89,890	18,161	9,483	462,830
営業利益	16,619	199	3,211	391	3,764	29,247
総資産	273,296	23,106	88,814	32,202	171,324	782,137
純資産	125,931	19,518	49,822	20,861	101,501	296,897

為替 レート	PL/1USD = ¥111.3 BS/1USD = ¥112.7
-----------	--------------------------------------

## 前2Q主要法人別セグメント概要

(単位：百万円)

	ドン・キホーテ	ドイツ	長崎屋 <sup>※1</sup>	海外 <sup>※2</sup>	JAM <sup>※3</sup>	連結
売上高	302,028	8,240	84,010	17,122	8,889	417,694
営業利益	13,069	390	3,166	583	3,806	26,343
総資産	237,357	23,200	82,797	20,766	126,258	628,931
純資産	113,166	19,424	47,503	14,652	23,272	265,432

為替 レート	PL/1USD = ¥105.7 BS/1USD = ¥101.1
-----------	--------------------------------------

※1. 長崎屋は、リテール（小売）事業のみの業績であります。

※2. 海外は、DQ USA、Marukai及びQSI（BSのみ）の米国事業3社を単純合計して記載しております。

※3. JAMに係るPL項目は2017年7月1日から同年12月31日までの業績、BS項目は同年12月31日現在としております。



# キャッシュフロー&設備投資の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

1.キャッシュフローの状況	当2Q	前2Q	増減額
期首残高	78,094	44,496	33,598
営業活動CF	31,758	39,737	▲7,979
投資活動CF	▲133,932	▲41,305	▲92,627
財務活動CF	84,580	21,572	63,008
期中増減等	▲17,059	19,665	▲36,724
期末残高	61,035	64,161	▲3,126
営業活動CF+投資活動CF	▲102,174	▲1,568	▲100,606

キャッシュフロー
<p>&lt;営業CF&gt;</p> <p>▶ 税金等調整前純利益309億円、減価償却費78億円及び仕入債務の増加281億円などが増加要因となる一方で、売上債権の増加42億円、たな卸資産の増加182億円及び法人税等支払額113億円などが減少要因となり、318億円がキャッシュイン</p>
<p>&lt;投資CF&gt;</p> <p>▶ 出店に伴う有形固定資産の取得184億円、子会社株式の取得163億円、関係会社株式の取得200億円及び貸付金支出777億円などで、1,339億円がキャッシュアウト</p>
<p>&lt;財務CF&gt;</p> <p>▶ 長短借入金純増額1,099億円が増加要因の一方で、社債純減額174億円、債権流動化の返済38億円及び配当金支払33億円などが減少要因となり、846億円がキャッシュイン</p>

## 2.設備投資の状況

設備投資額	19,844	19,857	▲13
キャッシュフロー <sup>※1</sup>	22,420	20,872	1,548
差引	2,577	1,015	1,562

設備投資
<p>▶ 設備投資は198億円（DQ108億円、長崎屋14億円、JAM149億円など：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は189億円）、キャッシュフローは224億円獲得したため、フリーキャッシュフローは26億円獲得。</p>

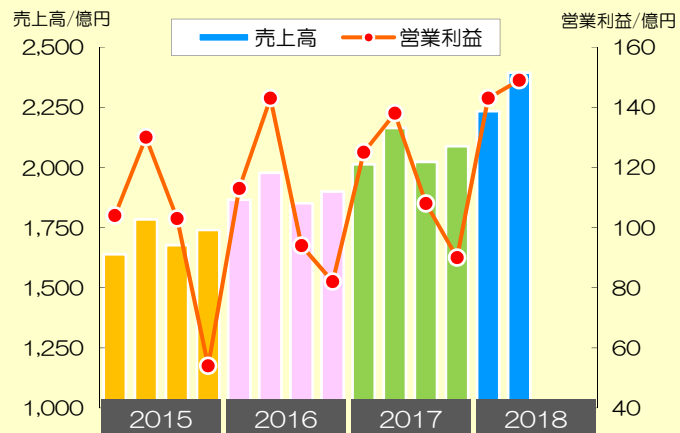
※1. キャッシュフロー = 純利益+減価償却費+特別損失-配当金

# 四半期業績推移 & 時価総額ランキング

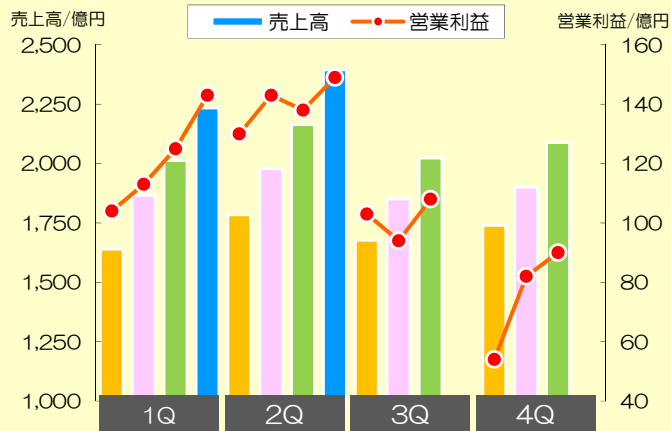
ドンキホーテ HLDGS

## 四半期業績推移

### 四半期業績推移の状況 (A)



### 四半期業績推移の状況 (B)



## ◆ 小売業時価総額ランキング

## 時価総額・株価の状況

2018年1月31日終値

(単位：億円)

順位	名称	時価総額
1	ファーストリテイリング	51,647
2	セブン&アイ・ホールディングス	39,766
3	ニトリホールディングス	19,896
4	イオン	16,196
5	良品計画	10,234
6	<b>ドンキホーテホールディングス</b>	<b>9,571</b>
7	ユニー・ファミリーマートホールディングス	9,250
8	ツルハホールディングス	7,455
9	ローソン	7,402
10	サンドラッグ	6,307
11	ヤマダ電機	6,253
12	エービーシー・マート	5,860
13	J.フロント リテイリング	5,401
14	三越伊勢丹ホールディングス	5,160
15	イズミ	4,966
16	セリア	4,930
17	マツモトキヨシホールディングス	4,890
18	ウエルシアホールディングス	4,853
19	しまむら	4,736
20	丸井グループ	4,640

## ◆ 株価の推移

Don Quijote Holdings Co., Ltd.

2018/2/1

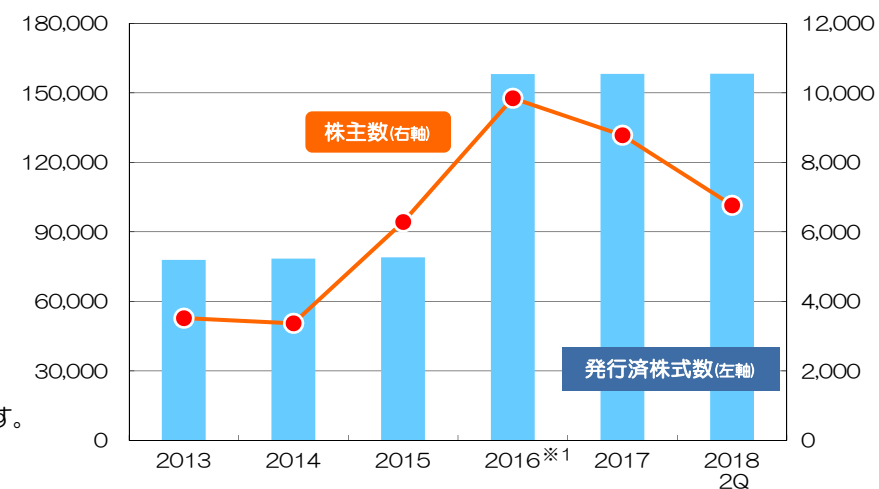


# 株式の状況

## ◆所有者別構成比推移

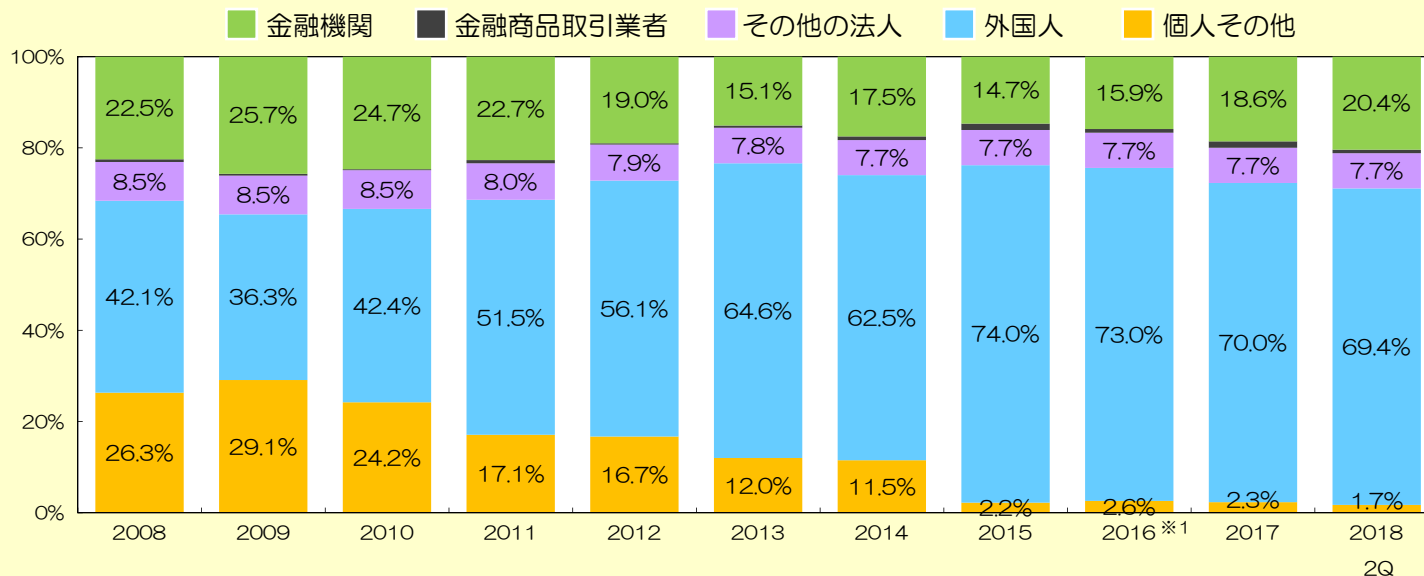
(単位：千株) (単位：千株) (単位：人数)

		前々期末※1		前期末		当2Q	
期末株主数		9,847人		8,781人		6,766人	
発行済株式数合計		158,118	100.0%	158,179	100.0%	158,193	100.0%
所有者別	金融機関	25,131	15.9%	29,506	18.6%	32,214	20.4%
	金融商品取引業者	1,323	0.8%	2,206	1.4%	1,353	0.8%
	その他の法人	12,100	7.7%	12,136	7.7%	12,119	7.7%
	外国人	115,448	73.0%	110,729	70.0%	109,735	69.4%
	個人その他	4,116	2.6%	3,602	2.3%	2,772	1.7%



- (注) 1. 当2Q末株主数は、6,766人（前期末比2,015人減、前2Q末比1,792人減）となっております。  
 2. 外国人持株比率は69.4%となっております。  
 3. 自己株式（4,633株）は、個人その他に含めております。

## ◆所有者別持株構成比推移



# 2Q業績分析

前期における以下の特殊要因の影響を調整した場合の簡易試算をご参照下さい。  
 なお、本試算は会計監査の適用外であり、当社が任意に計算したものであることをご承知願います。

- ※1. DQHD ACRを連結対象会社から持分法適用関連会社に変更（実施は前3Q）
- ※2. DQHD ACR子会社ストアクルーズ株式取得（実施は前3Q）
- ※3. JAM 所有固定資産売却（実施は前3Q）及び持分比率増加
- ※4. その他 上記1～3に係る関連事項の調整  
 税率は当期税率を、非支配株主利益は当期持分比率を適用

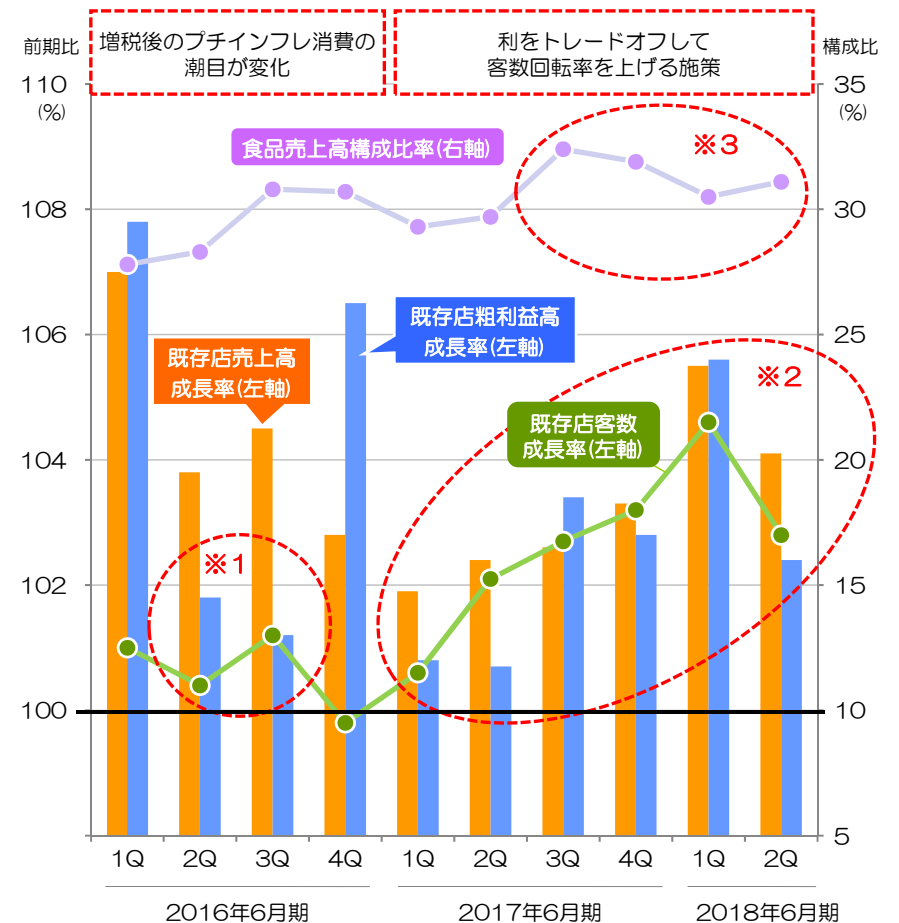
	当2Q			前2Q				
	開示実績		前期比	当期同一基準（※1～4）		前期比	開示実績	
	金額	百分比		金額	百分比		金額	百分比
(単位：億円)								
売上高	4,628	100.0%	110.8%	111.1%	※1 4,167	100.0%	4,177	100.0%
売上総利益	1,202	26.0%	108.6%	109.7%	※1 1,096	26.3%	1,106	26.5%
販管費	909	19.6%	107.9%	108.3%	※1 840	20.2%	843	20.2%
営業利益	292	6.3%	111.0%	114.2%	※1 256	6.1%	263	6.3%
営業外損益	18	0.4%	309.6%	208.0%	※1 9	0.2%	6	0.1%
経常利益	311	6.7%	115.3%	117.3%	265	6.4%	269	6.4%
特別損益	▲1	▲0.0%	-	62.5%	▲2	▲0.0%	0	0.0%
税調整前利益	309	6.7%	114.9%	117.6%	263	6.3%	269	6.4%
法人税等	110	2.4%	147.4%	119.1%	※3 ※4 93	2.2%	75	1.8%
非支配株主利益	12	0.3%	41.3%	116.2%	※1 ※3 ※4 11	0.3%	30	0.7%
当期純利益	187	4.0%	113.5%	116.8%	160	3.8%	165	3.9%

## 既存店粗利高は常に増益をキープ！

- ※1. 消費マインドの変化を先取りして、価格訴求を徹底強化。
- ※2. 来店客数及び購入点数増加策を講じて、他社シェア奪取。
- ※3. ニーズに応え、集客マグネットとして食品構成比率上昇。



## ◆ 既存店売上高・粗利益高成長率の推移



# ポストGMS新ステージ始動

ドン.キホーテ HLDGS

## 提携進捗とスケジュール

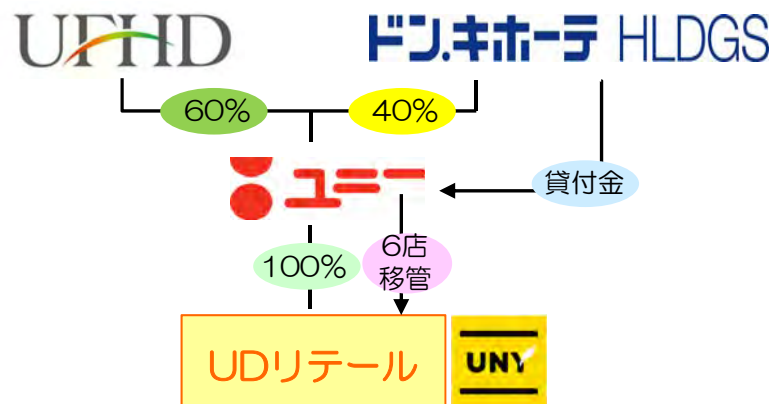
2017年11月21日、ドンキホーテHDはユニー・ファミリマートHDが所有するユニー株の株式40%の取得が完了しました。  
2018年2月23日オープンの「MEGAドン・キホーテUNY大口店」を皮切りに同年3月までに6店舗のダブルネーム店を順次オープンする予定です。



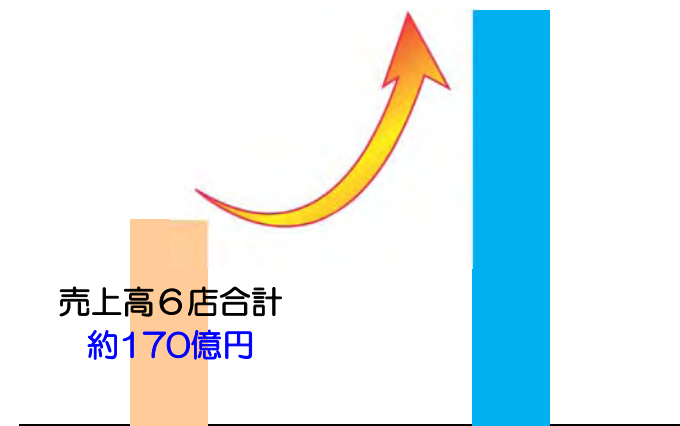
## ダブルネーム店マップ



## 資本提携フロー



## 成長イメージ



# Exciting News やねん!

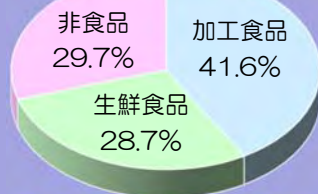
2017.12.1  
Debut

## 東南アジア 初進出

シンガポールの繁華街、オーチャードの商業施設内、地下1階、地下2階に売場面積約1,400㎡の「ジャパンスペシャルティストア」が待望のオープン！  
ハイクオリティとロープライスを両立して、話題沸騰中。  
店内から「Amazing!」「Wow!」の歓声が鳴り止まず大盛況。



### 商品別 売上高構成比



2018.1.19  
Renewal

## えびすタワー再始動



### 2つの「世界初」

- ①長円形
- ②座席が180度回転

### 3つの「日本初」

- ①自己水平機能付きキャビン
- ②外周走行
- ③リバーサイド



えべっさんもびっくりやで!

ドン.キホーテ

# 当期出店状況

ドン・キホーテ HLDGS

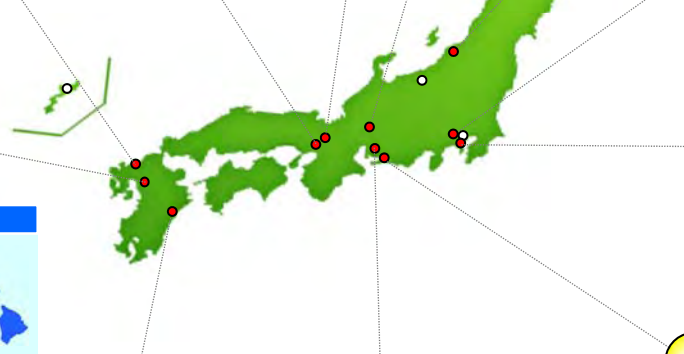
## フォーマット別店舗数

	2016年	2017年	2018年6月期	
	6月期	6月期	1Q	2Q
ドン・キホーテ	※1 194	198	199	204
M E G A	※2 39	40	40	41
New M E G A	55	72	73	77
ピカソ	※3 20	21	21	21
驚安堂	3	4	4	3
ドイト	14	17	17	17
長崎屋	2	2	2	2
海外	14	14	37	38

## 法人別店舗数

ドン・キホーテ	270	292	294	303
長崎屋	39	40	40	41
ドイト	14	17	17	17
ライラック	3	4	4	3
ダイシン百貨店	1	1	1	1
国内合計	327	354	356	365
D Q U S A	3	3	※4 4	4
M A R U K A I	11	11	※4 9	9
Q S I	-	-	24	24
P P I H D	-	-	-	1
海外合計	14	14	37	38
合計	341	368	393	403

- ※1. 「ドン・キホーテ」には、「ドン・キホーテ」及び「パウ」が含まれております。
- ※2. (株)長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。
- ※3. 「ピカソ」には、「ピカソ」「エッセンス」「エキドンキ」及び「ソラドンキ」が含まれております。
- ※4. MARUKAIハワイ2店をDQUSAの子会社に改組しております。(うち1店は地域再開発のため閉鎖しております)
- ※5. 当期は地域再開発のため1店、区画整理事業のため1店及び効率改善のため2店閉鎖しております。
- ※6. 上記の他に、1店が店舗建替えのため休業しております。
- ※7. \*は、ソリューション出店であります。



# 当期ハイライト情報

個店力・現場力に磨きをかけて、節約消費時代を駆け抜ける。  
 新規出店は2Q累計期間で15店。通期の新規出店は30店の見込み（+ダブルネーム店6店）。

法人	業態	1 Q			2 Q			3 Q			4 Q		
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
DQ	DQ	新宿東南口 (東京)		長野駅前 (長野) *	長岡川崎 (新潟) *	世田谷若林 (東京)	吹田江坂 (大阪)	狸小路 (北海道)		西新井駅前 (東京)			
	DQ MEGA	名護 (沖縄)			関マーゴ (岐阜) *	クラスポ蒲郡 (愛知) *				霧島隼人 (鹿児島)			
	ピカソ					京都山科 (京都)							
長崎屋					豊橋 (愛知) *				姫路広畑 (兵庫)				
ライラック									あきる野 (東京)				
ドイト													
海外				ハワイ州 24店舗取得									
UDリテール ユニー×DQ ダブルネーム店運営									大口(神奈川)	東海通(愛知)			
										座間(神奈川)			
										星川(三重)			
										豊田元町(愛知)			
										国府(愛知)			

「熱中症  
予防キャン  
ペーン」  
実施

ユニー・  
ファミリー  
マートHDと  
資本・業務  
提携

QSI,Inc.の  
全株式を  
取得し連結  
子会社化

事業領域  
拡大のため、  
新任取締役  
8名就任

ユニー  
株式  
40%  
取得

グループ  
店舗数  
400店達成

ASEAN  
1号店を  
シンガポ  
ールに出店

免税販売高  
最高記録を  
更新

代表2名  
体制に変更

DQ+UNY  
ダブルネーム  
6店開店

■ = DQ

■ = MEGA

□ = ドイト

■ = ピカソ

■ = 驚安堂

□ = 海外

■ = MEGA・ドンキホーテ UNY  
(アピタ・ピアゴからの業態転換店)

\* = ソリューション出店

✓ = (スクラップ) & ビルド店



# 2Q決算レビュー

国内客による生活必需品消費と訪日客による免税売上高が、それぞれ裾野を広げながら一段と力強さを増したことで、天候やカレンダーが季節イベント消費に及ぼしたマイナス影響を十分カバーして高い成長率で着地！

## <営業日減に雨また雨の悪天候 10月> <国内も免税販売も強さ際立つ 11月> <低気温が牽引し年末スパート 12月>

既存店売上高：2.6%増 客数：0.2%増 客単価：2.4%増  
土日休日数増減：-1日

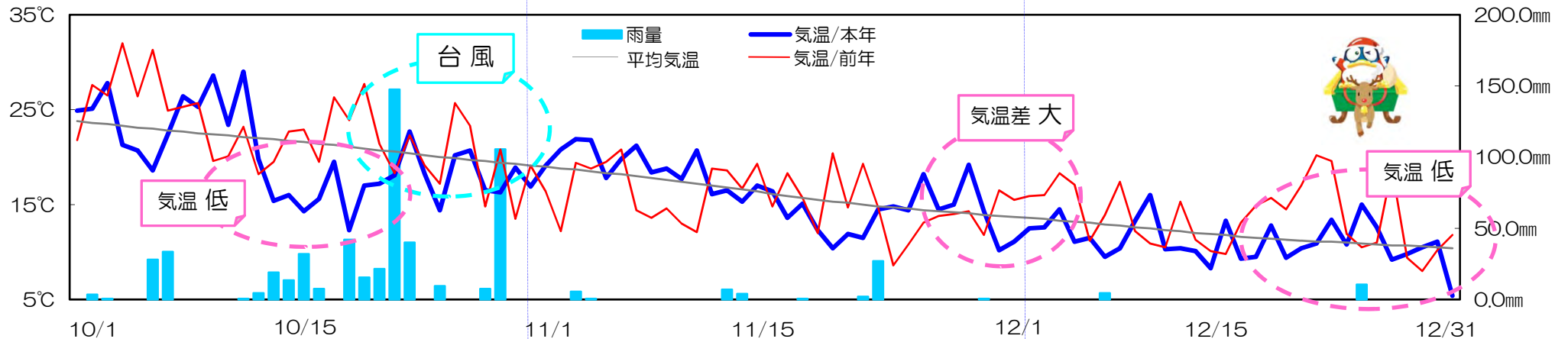
- 😊 ● 台風が連続上陸でも食品は順調
- 😓 ● 低温と雨でハロウィンは出不精
- 😊 ● 免税販売は客数増で消耗品好調

既存店売上高：5.9%増 客数：5.4%増 客単価：0.5%増  
土日休日数増減：±0日

- 😊 ● 生活必需品需要が販売をリード
- 😊 ● 晴天日多く、月後半に気温低下
- 😊 ● 話題呼ぶヒット商品が続々登場

既存店売上高：4.0%増 客数：3.0%増 客単価：0.9%増  
土日休日数増減：±0日

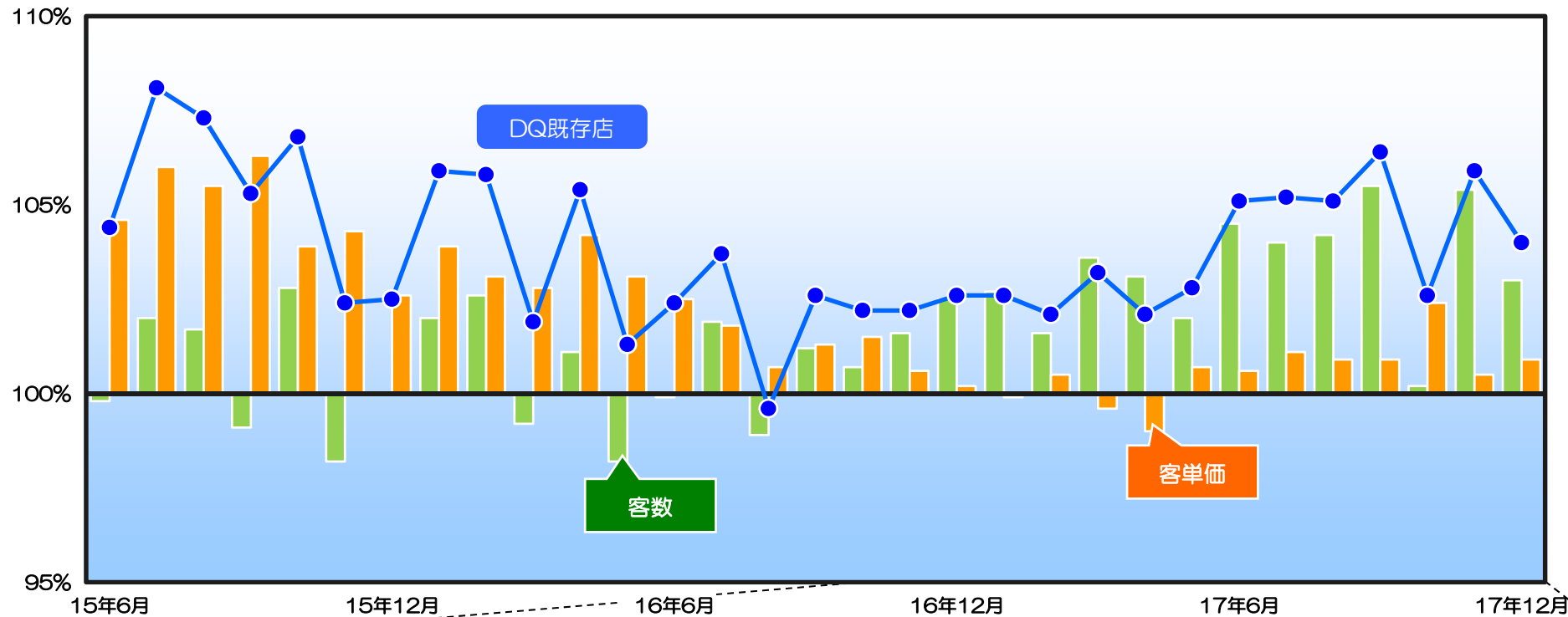
- 😊 ● 低気圧で保湿・防寒用品が急伸
- 😊 ● 加速する免税販売高は記録更新
- 😊 ● 縁起物や食品など年末商戦盛況



### <主な出来事>

今年	✓中国国慶節（10月1日～8日）	<出店数> 4	✓iPhone X発売開始（11月3日）	<出店数> 5	✓東南アジア(シンガポール)初出店（12月1日）
	✓衆議院議員総選挙（10月22日）		✓ドン・キホーテグループ店舗数400店突破（11月22日）		✓2017年の訪日入国者数2,869万人 <出店数> 3
昨年	✓中国国慶節（10月1日～7日）	<出店数> 1	✓福島県沖地震が発生（11月22日）	<出店数> 3	✓IR法案が衆参両院で可決（12月14日）
	✓鳥取県中部地震が発生（10月21日）		✓関東地方の広範囲で初雪観測（11月24日）		✓2016年の訪日入国者数2,404万人 <出店数> 1

# DQ月次販売高の状況



既存店	16年10月	11月	12月	17年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	102.2%	102.2%	102.6%	102.6%	102.1%	103.2%	102.1%	102.8%	105.1%	105.2%	105.1%	106.4%	102.6%	105.9%	104.0%
・客数	100.7%	101.6%	102.5%	102.7%	101.6%	103.6%	103.1%	102.0%	104.5%	104.0%	104.2%	105.5%	100.2%	105.4%	103.0%
・客単価	101.5%	100.6%	100.2%	99.9%	100.5%	99.6%	99.0%	100.7%	100.6%	101.1%	100.9%	100.9%	102.4%	100.5%	100.9%
対象店舗数	238店	239店	240店	244店	244店	245店	247店	258店	258店	265店	269店	271店	274店	275店	277店
土日休日数	+1日	-1日	+1日	-1日	-2日	±0日	±0日	-1日	±0日	±0日	±0日	±0日	±0日	-1日	±0日

景気回復途上の足音も、現実には天候不順と節約消費主流で競争激化。  
 強気で攻めた品揃えと価格提案が本気で支持され、インバウンド人気は活気にあふれる。今日もドンキは元気いっぱい！  
 DQ既存店は4.8%増（客数3.7%増、客単価1.1%増：真水2.8pt増、免税2.0pt増）

# 2Q連結業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【2017年10月1日～2017年12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q		前2Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	239,397	100.0%	216,367	100.0%	110.6%
売上総利益	60,908	25.4%	56,415	26.1%	108.0%
販管費	45,961	19.2%	42,605	19.7%	107.9%
給与手当	17,313	7.2%	16,076	7.4%	107.7%
地代家賃	6,800	2.8%	5,749	2.7%	118.3%
支払手数料	5,573	2.3%	5,062	2.3%	110.1%
減価償却費	3,498	1.5%	3,454	1.6%	101.3%
その他	12,777	5.3%	12,264	5.7%	104.2%
営業利益	14,947	6.2%	13,811	6.4%	108.2%
経常利益	16,757	7.0%	14,140	6.5%	118.5%
当期純利益	10,212	4.3%	8,332	3.9%	122.6%
1株当たり純利益	64.56円		52.69円		122.5%

# 2Q事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【2017年10月1日～2017年12月31日】

(単位：百万円)

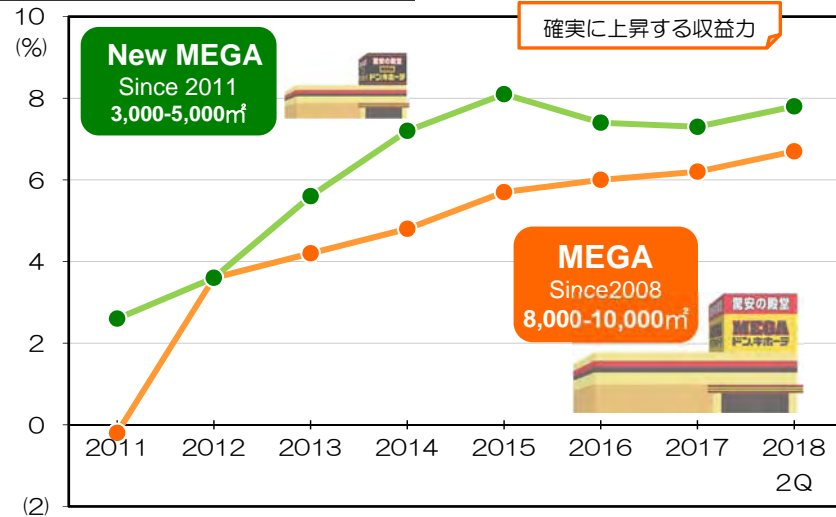
	当2Q		前2Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業 <sup>※1</sup>	232,293	97.0%	209,262	96.7%	111.0%
家電製品	21,592	9.0%	19,011	8.8%	113.6%
日用雑貨品	55,052	23.0%	44,635	20.6%	123.3%
食品	80,326	33.6%	70,110	32.4%	114.6%
時計・ファッション用品	43,787	18.3%	44,915	20.8%	97.5%
スポーツ・レジャー用品	15,276	6.4%	15,428	7.1%	99.0%
DIY用品	4,175	1.7%	4,069	1.9%	102.6%
海外 <sup>※2</sup>	9,109	3.8%	8,207	3.8%	111.0%
その他商品	2,976	1.2%	2,886	1.3%	103.1%
テナント賃貸事業 <sup>※1</sup>	5,454	2.3%	5,236	2.4%	104.2%
その他事業	1,650	0.7%	1,869	0.9%	88.3%
合計	239,397	100.0%	216,367	100.0%	110.7%

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. 当2Q 1USD=111.3円、前2Q 1USD=105.7円

# 2Q累計レビュー：販売動向分析

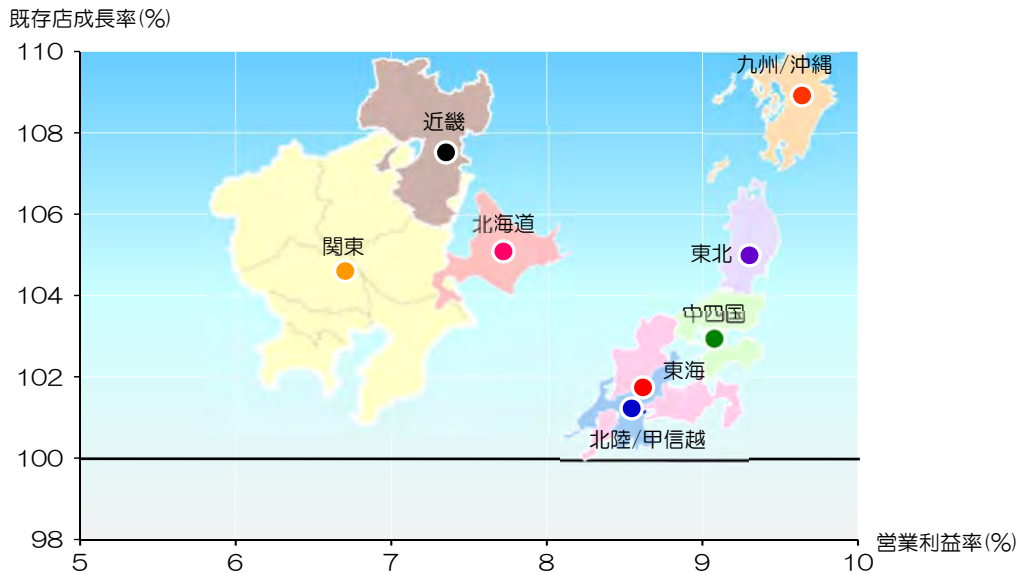
## ◆ 既存店 営業利益率推移



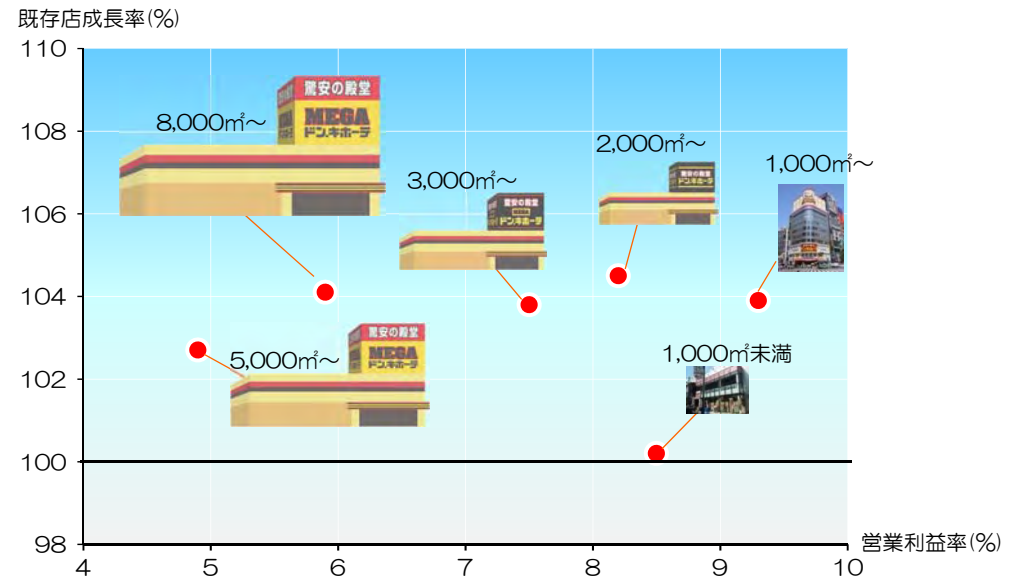
- ✓ ファミリー市場のニーズを獲得して利益を創造
- ✓ 大都市も地方都市も個店力で収益力を伴い成長
- ✓ 小型店から大型店まで全方位で競争優位性発揮



## ◆ 既存店売上高成長率/営業利益率（地域別）

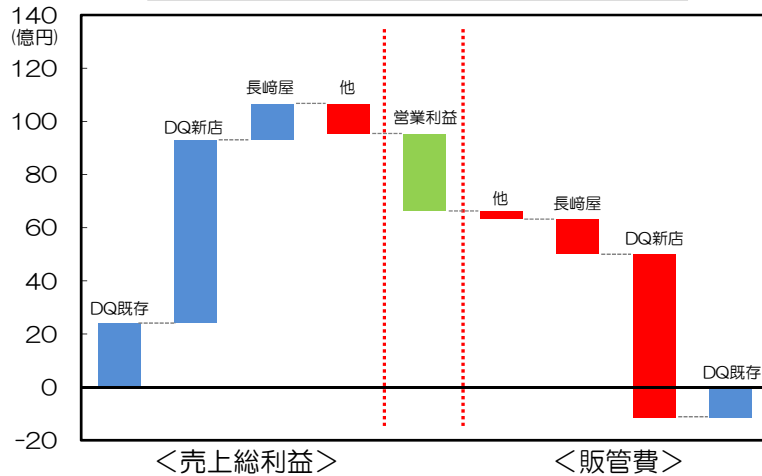


## ◆ 既存店売上高成長率/営業利益率（面積別）

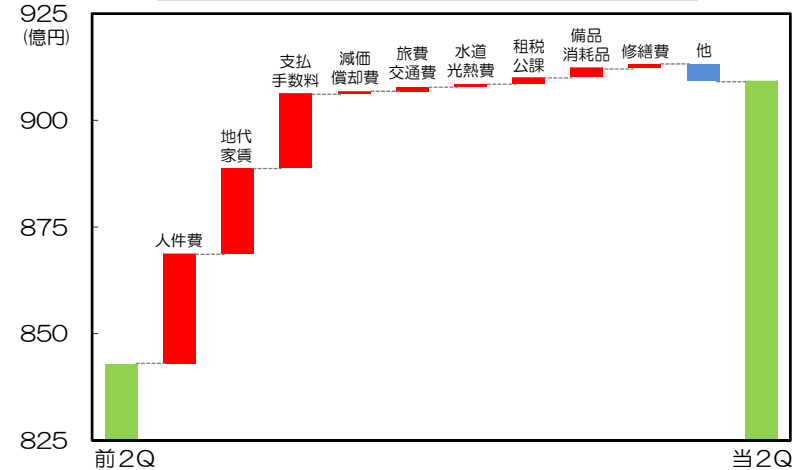


# 2Q累計レビュー：収益構造分析

## 営業利益増減要因分析

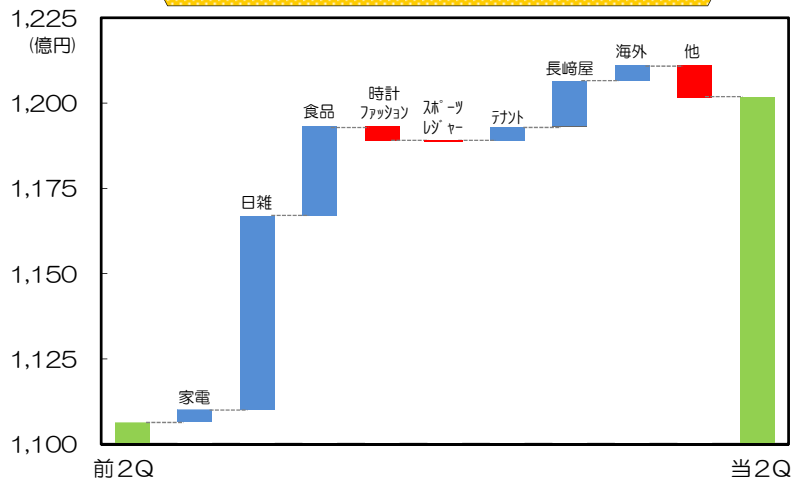


## 販管費増減要因分析

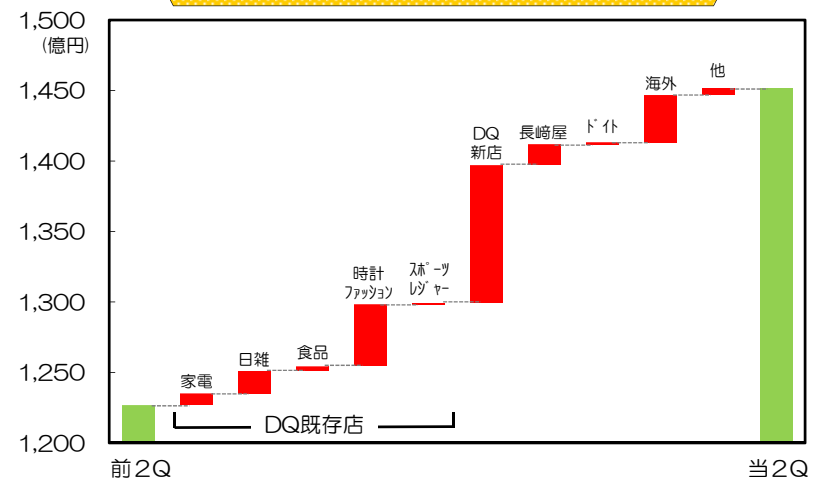


- ✓ 既存店はライバル店からのシェアを確実に奪取
- ✓ 組織改編とドンキ流動き方改革実践で効率改善
- ✓ 強気で攻めた一時的な在庫高増を適切に見極め

## 売上総利益増減要因分析

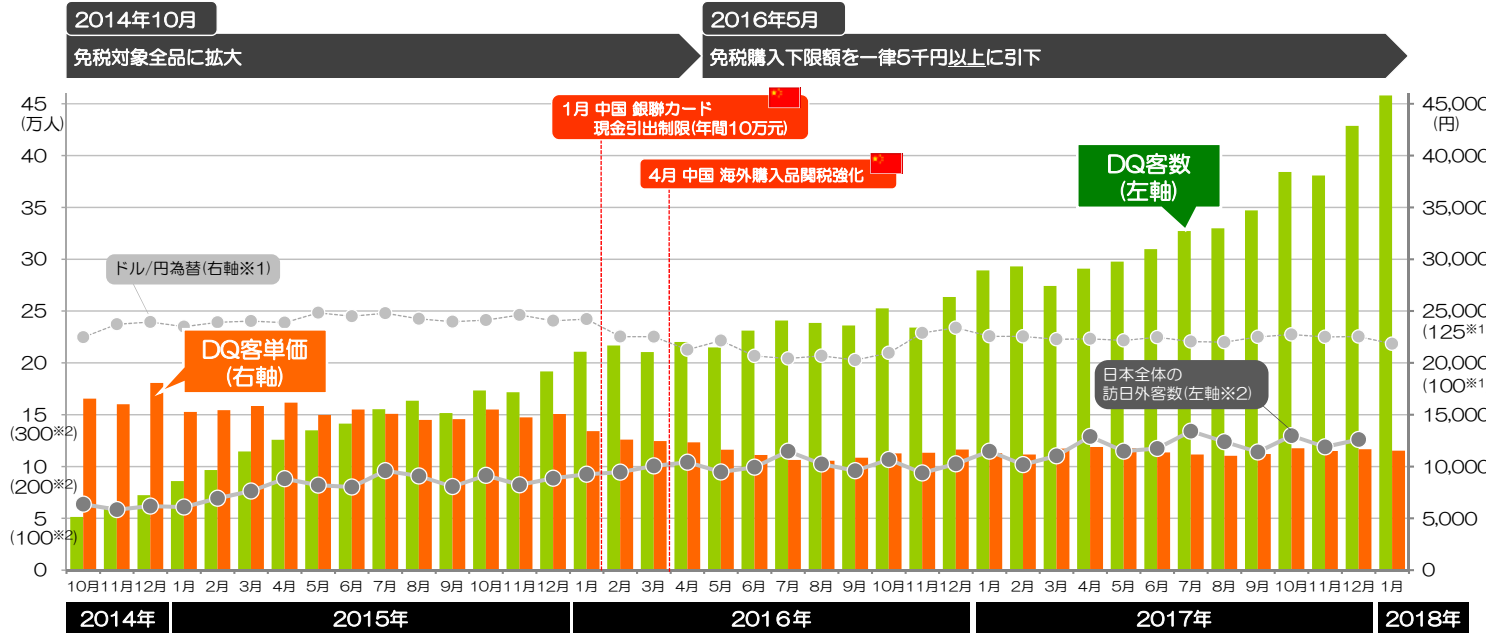


## 商品在庫増減要因分析



# インバウンドの状況

## ◆ 免税客単価と客数の推移



## ◆ 免税売上高構成比 上位10店

順位	店舗名	免税構成比
1	道頓堀御堂筋店 (大阪)	62.9%
2	道頓堀店 (大阪)	60.3%
3	国際通り店 (沖縄)	50.6%
4	中洲店 (福岡)	50.1%
5	なんば千日前店 (大阪)	47.4%
6	京都アバンティ店 (京都)	40.9%
7	銀座本館 (東京)	40.3%
8	新宿歌舞伎町店 (東京)	39.4%
9	新宿東南口店 (東京)	36.5%
10	札幌店 (北海道)	33.7%
全店		7.3%

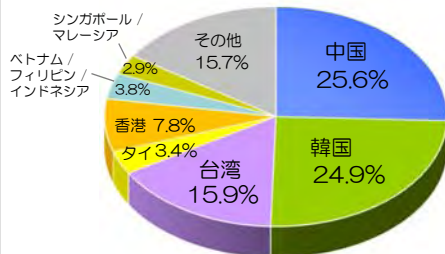
対象データ：  
 (株)ドン・キホーテ (2017年1月1日～2017年12月31日)  
 ランキング上位10店は、開店後6ヵ月経過店舗

## 日本のインバウンド状況

(2017年1月1日～2017年12月31日)

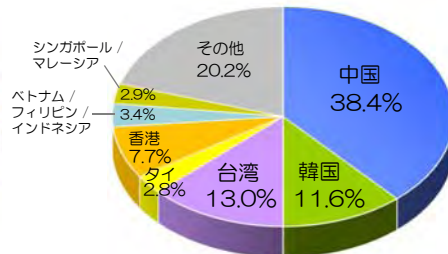
### 訪日外客数

年間2,869万人(16年比 19.3%増)



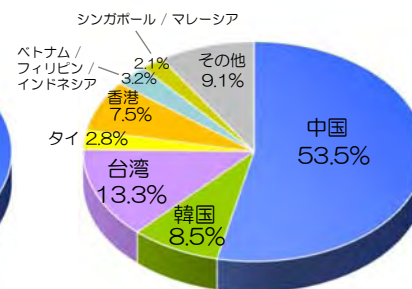
### 訪日旅行消費額

4兆4,161億円(同17.8%増)



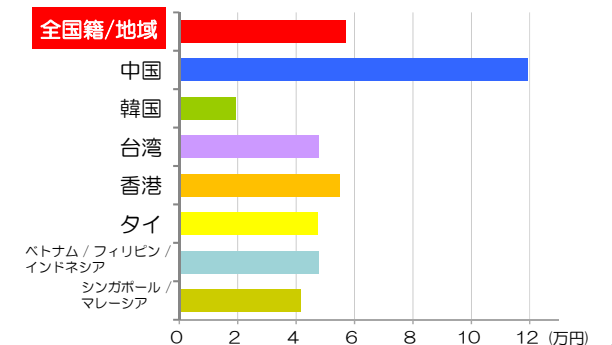
### 訪日旅行消費額(買物代)

[全国籍/地域] 1兆6,398億円(同15.0%増)



### 訪日外国人1人当たり旅行支出(買物代)

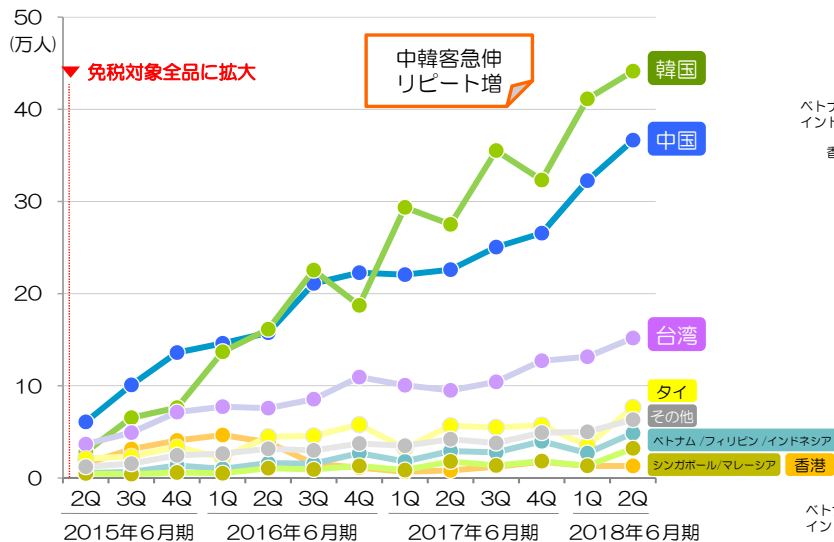
[全国籍/地域] 57,154円(同3.7%減)



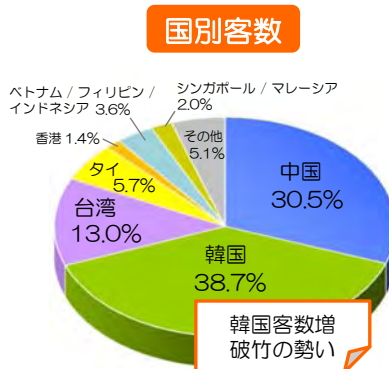
出典：日本政府観光局(JNTO)、観光庁

# インバウンドの状況

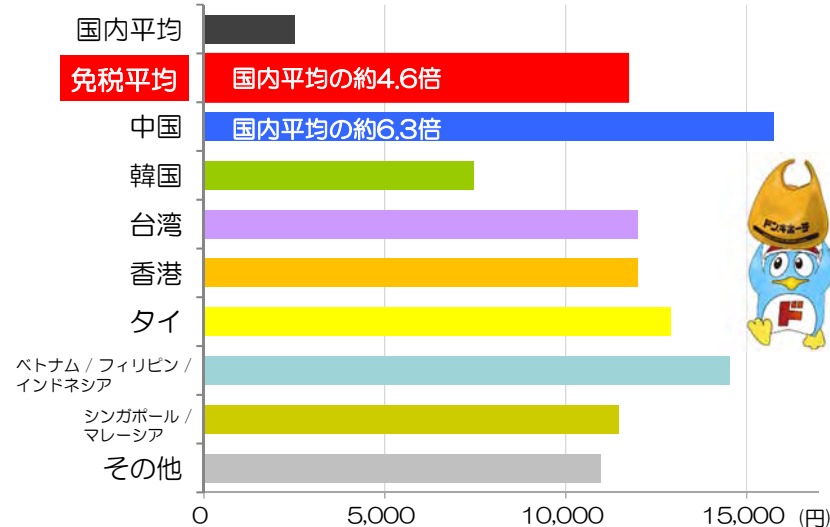
## 訪日外国人客数の推移



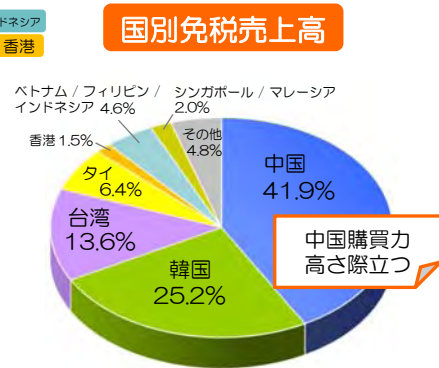
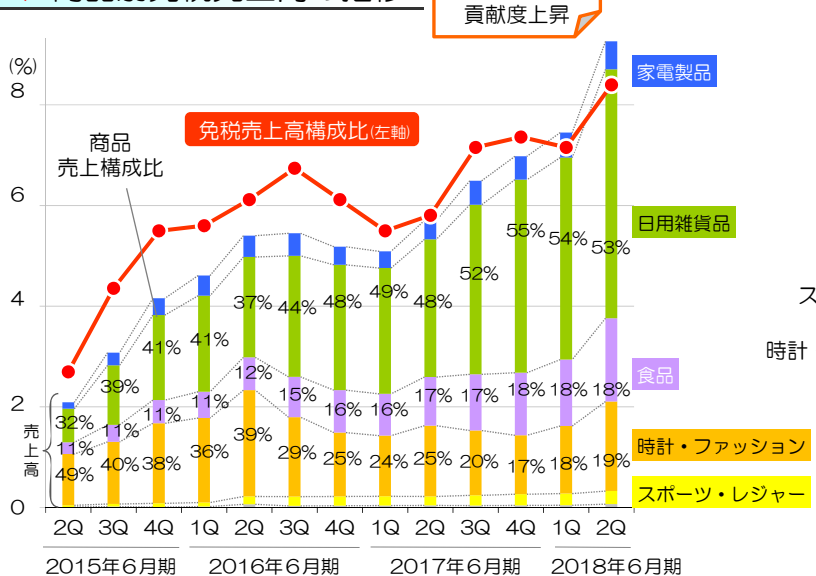
## 免税構成比



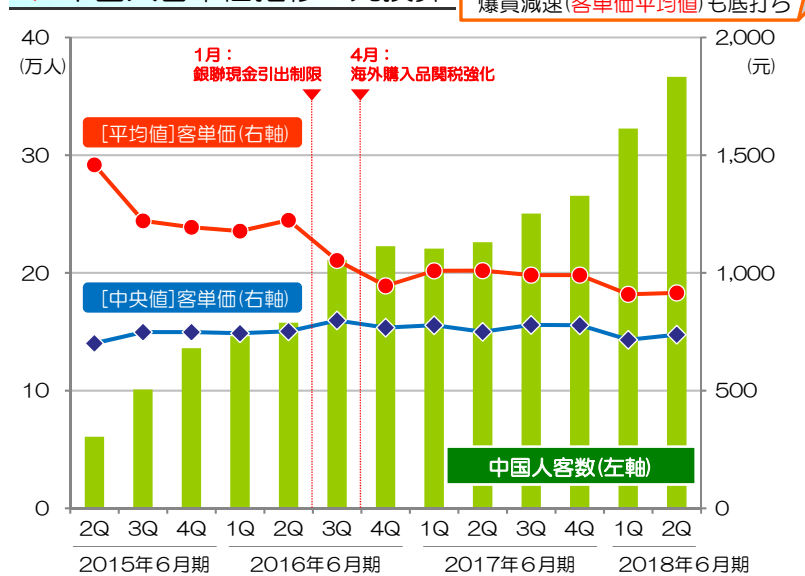
## 免税客単価



## 商品別免税売上高の推移



## 中国人客単価推移：元換算





# ビジョン2020と当期の施策

ドン・キホーテ HLDGS

## — ビジョン2020 —

1. 売上高 1兆円
2. 店舗数 500店
3. ROE 15.0%

Sustainable Value Creators!

## —2018年6月期施策—

お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

### 1. 営業方針：

- 商圏内競争を勝ち上がり、収益力拡大とブランド力の底上げを図る
- 素早く柔軟な体制強化のため、いっそう狭くて深い権限委譲を徹底
- インバウンド消費の需要創造と収益最大化
- スモールメリットとスケールメリットの両立

### 2. 商品戦略：

- 付加価値の高いディスカウント体制の一層の強化
- 儲ける力を持ち、スピード感のあるMD立案と実行
- 生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進

### 3. 店舗戦略：

- 設備投資額450億円
- 新規出店30店+α、DQ・MEGA店とも個店力を強化し、あわせてダブルネーム6店舗を展開
- DQ既存店売上高予想：上半期=4.8%増、下半期=0.6%増、通期=2.7%増

Note

当3Qから、QSIのPL連結及びユニーの持分法適用が開始されます。

### 4. 人事戦略(雇用改定5ヵ年計画の推進)：

- 多様性を認める企業文化を堅持
- 多様な雇用形態の創出
- 権限委譲とノンストレス型職場環境づくりの両立

### 5. 財務戦略：

- 資金効率及び収益力を高めてバランスシートを改善。  
1USD=115円、1SGD=80円前提
- デットによる資金調達を優先（エクイティ調達は予定無し）
- 年間配当金予想=27円00銭  
（「累進的配当政策」を基本方針とし、15期連続増配予定！）

# 通期の連結業績予想

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	通期修正予想			前回予想 <sup>※1</sup>		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	920,000	100.0%	111.0%	890,000	100.0%	828,798	100.0%
売上総利益	240,000	26.1%	109.8%	234,200	26.3%	218,580	26.4%
販管費	189,000	20.5%	109.6%	184,400	20.7%	172,395	20.8%
営業利益	51,000	5.5%	110.4%	49,800	5.6%	46,185	5.6%
経常利益	53,800	5.8%	118.2%	49,800	5.6%	45,523	5.5%
当期純利益	32,200	3.5%	97.3%	29,500	3.3%	33,082	4.0%
1株当たり純利益	203.55円	—	97.3%	186.49円	—	209.18円	—
設備投資額	45,000	—	99.2%	45,000	—	45,357	—
減価償却費	15,000	1.6%	106.6%	15,000	1.6%	14,075	1.7%

※1. 前回予想は、2017年8月15日に公表した当初予想（売上高8,800億円、営業利益480億円、経常利益480億円、純利益280億円）を、同年11月6日に上方修正したものであります。

「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、  
ディスカウント体制の一層の強化を進めながら、  
引き続き増収増益決算を目指します。

# 上場子会社決算業績概況

ドンキホーテ HLDGS

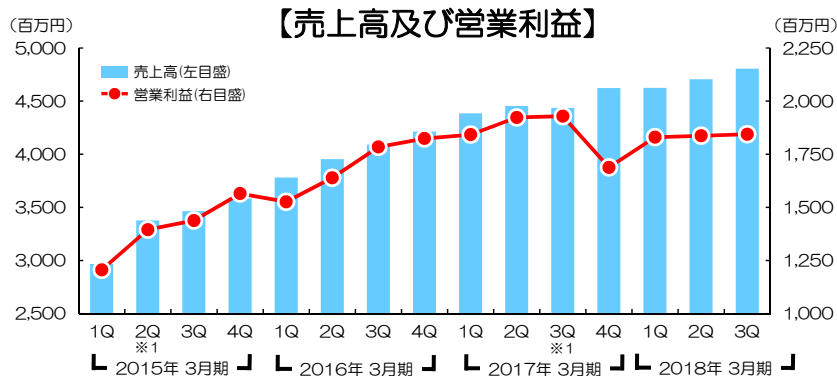
日本アセット  
マーケティング  
(8922)

(単位：百万円)

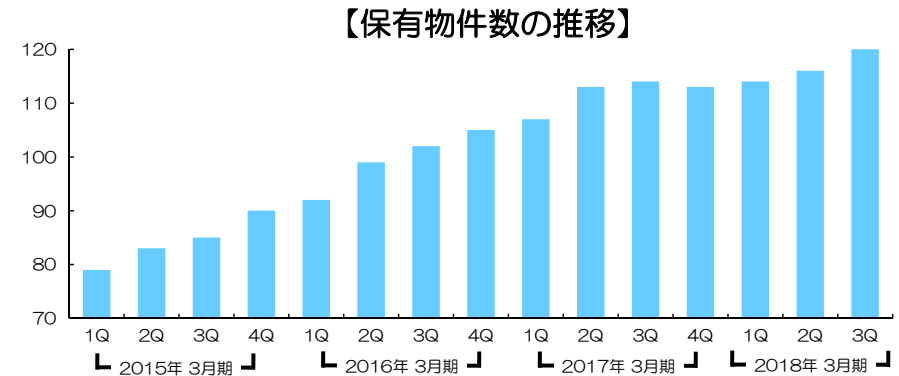
【PL概況】	当3Q (17年4月1日~12月31日)			前3Q (16年4月1日~12月31日)	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
売上高	14,134	100.0%	106.5%	13,273	100.0%
売上総利益	6,217	44.0%	104.6%	5,945	44.8%
販管費	706	5.0%	282.4%	250	1.9%
営業利益	5,511	39.0%	96.8%	5,694	42.9%
経常利益	5,197	36.8%	97.6%	5,325	40.1%
当期純利益	4,850	34.3%	99.4%	4,881	36.8%

(単位：百万円)

【BS概況】	当3Q末		前期末
	金額	増減	金額
流動資産	38,755	10,124	28,631
固定資産	135,991	19,180	116,811
資産合計	174,747	29,305	145,442
流動負債	12,856	▲2,966	15,822
固定負債	60,341	▲4,519	64,860
負債合計	73,198	▲7,484	80,682
純資産合計	101,548	36,789	64,759



※1. 2015年3月期2Qより非連結決算、2017年3月期3Qより連結決算となっております。



グループ総合力を発揮して収益力は着実に上昇！

# 本日はありがとうございました。

ドンキホーテ HLDGS

## IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドンキホーテホールディングス IR部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

## IRカレンダー

第38期（2018年6月期）第3四半期決算発表（予定）

決算発表日：2018年5月8日（火）

説明会会場：ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー）

## 将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

# ドン.キホーテ HLDGS